令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル			活動計画	評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
人権教育の推進	全ての教育活動を通じて、人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。	①	生徒の自立と自己実現を図る。	1	「人権の日」を実施し、日常生活の中で生徒の人権意識の涵養を図るように努める。	生徒アンケートで「人権の日が有意義であった」を80%以上にする。	達成度は94%であり、生徒の人権意識の涵養に一定の成果があった。	A	B 「人権の日」と「ホームルーム活動（人権）」に対する生徒の評価は、いずれも評価指標を達成できた。昨年度より数値が上がっており、一定の成果を得ることができた。一方、教職員の中には「あまり有意義ではなかった」との意見もあり、授業展開などを見直していく必要があると感じた。 ハンセン病講演会は生徒の反応も好評で、その後の研究授業にも大いに活かされていると感じた。美馬フィールドワークとその他の教職員研修の評価も評価指標を達成できた。この結果を受け、本校の人権教育は、評価指標のとおり達成できた。	継続的な人権学習活動や講演会を開催することで、人権教育に向けての啓発活動が実践できていると感じられる。今後も更なる人権意識高揚に努め、より一層の人権啓発活動を展開できるよう取組を継続してほしい。 また、学校や保護者、地域が連携した人権啓発活動に関する諸行事等も開催できるような環境整備を考えていただきたい。	「ホームルーム活動（人権）」において、生徒が主体的に活動できるような授業展開を取り入れ、生徒が人権課題について自分事と捉え、学習できるようにしていきたい。また、美馬フィールドワークも継続して実施し、地域の実態に学ぶ教職員の研修を深めていく。そして、教育活動全てにおいて、人権について考える機会を積極的に取り入れていく。生徒の自主活動に関しても、来年度も引き続き取り組んでいきたい。
				2	「ホームルーム活動（人権）」を実施する際に、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組み、個別人権課題を積極的に取り扱う。	生徒アンケートで「ホームルーム活動（人権）が有意義であった」を80%以上にする。	達成度は96％であり、普遍的な視点と個別的な視点の双方から取り組むことができた。	A			
		②	教職員研修の充実を図る。	1	美馬フィールドワークを実施し、地域の方々の思いを受けた人権研修に取り組む。	教職員アンケートで「美馬フィールドワークが有意義であった」を80%以上にする。	達成度は100％であり、地域の方々の思いを一端ではあるが、感じ取ることができた。	A			
				2	人権教育に関する研究授業・研究協議に、参加該当教職員で取り組む。	教職員アンケートで「研究授業・研究協議が有意義であった」を80%以上にする。	学年ごとに各クラスの担任を中心に参加したが、「十分有意義」「概ね有意義」が100％であり、研究授業・研究協議が教職員の授業に生かされた。	A			
				3	ホームルーム活動（人権）や人権の日で、担任だけでなく副担・所属協力の下、指導案作成や資料作成を2回実施する。	教職員アンケートで「指導案や資料を協力して作成することにより、より内容が充実した」を50%以上にする。	本年度、全体としてのティームティーチングは実施しなかったが、２回以上が40%、１回が29%であり、実施なしのクラスが31%であった。全クラスで正副担任の先生で協力して実施していきたい。	B			
		③	学校・家庭・地域の連携の推進を図る。	1	人権教育講演会や研修会に、保護者や地域の方々の参加を得る。	人権教育講演会や研修会に、保護者や地域の方々から5名以上の参加を得る。	保護者に人権教育映画鑑賞を案内したが、平日ということもあり、参加者は1名だった。今年度の美馬・三好地区人権教育職員研修会は現時点では実施されていない。	B			
				2	異校種間交流の充実に努める。	特別支援学校や地域の小中学校等に、専門学校としての技術やスキル・それを使って制作した物を提供する機会を1回は持つ。	地元小学校へのプログラミング出前授業を実施するなど異校種間交流もできた。	B			

令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
		④	生徒の自主活動の活性化を図る。	1	美馬高校生友の会や「中・高生による人権交流事業」等校外の自習活動に積極的に参加する。	美馬高校生友の会や「中・高生による人権交流事業」西部ブロック実行委員会及び生徒部会に、年間10回以上(合計)参加する。	今年度は部員も増え、「中・高生等による人権交流事業」西部ブロック生徒部会にもすべての会で参加することができ、交流集会でも分科会で中心的な役割を担うことができた。	A			
学習指導の充実	主体的・対話的で深い学びを実践するための指導方法の工夫・改善により、「確かな学力」の向上を図る。	①	主体的に学習に取り組み、他の人と協働しながら学ぶ態度を育てる。	1	全ての教科で学習目標を明確にし、学習内容の意義を自覚させることで、生徒が主体的に学ぶ意欲と態度を充実させる。	生徒アンケート「主体的に授業に取り組むことができたか」を80%以上、職員アンケート「授業中、ICTの活用やアクティブラーニング等による対話的な授業の実践に努めたか」を80%以上にする。	生徒アンケートでは44%の生徒が自ら進んで学習に取り組んだと答えた。職員アンケートでは49%が実践に努めたと回答した。	B	B 生徒は提出物の期限を守り、授業に真面目に取り組んでいる。自らの進路決定に向け、さらなる精進を期待したい。電子黒板やタブレットの活用について工夫と改善が進んでいる。ＩＣＴを使った基礎学力の向上と専門教育の推進を図りたい。また、朝学月間は各教科の課題に取り組み、定期考査の評価に取り入れた。アンケートの結果は目標を下回ったが、担任と教科の先生方が協力し、生徒が集中して学習に取り組む時間を確保できた。来年度の運用方法を試行したい。	生徒は主体的に学習活動に取り組めており、授業に対する満足度も高く充実した授業実践ができている。 また、ＩＣＴ環境も整備されており、生徒に対して理解しやすい授業が常時展開できることは生徒の意欲向上につながっている。	本校のＩＣＴ環境（電子黒板、生徒タブレット等）を利活用した教材の作成やデータベース化を推進し、生徒の思考力・判断力・表現力を育て、問題解決能力を身につけていきたい。
				2	各教科における調べ学習や読書会等をとおして学校図書の計画的な利活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させる。	各クラス年1回以上図書室を利用し、学習活動を行い、読書会を年1回以上企画する。	図書室は各教科で積極的に利用された。一方、読書会を開催することはできなかった。	B			
		②	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。	1	「朝学月間」(6／9／11月)の時間を計画的に実施し、基礎学力の定着・向上を図る。	生徒アンケート「朝学月間の時間は有意義だった」を85%以上にする。	生徒の42%が有意義だったと答えた。	B			
				2	進学補習を計画的に実施し、普通教科の学力を向上する。	進学補習参加率を80%以上にする。	部活動と資格補習のため、進学補習への参加率は68%に留まり、目標を達成できず。ただし、欠席者には課題を配布し補った。	B			
						各学科で基礎・基本となる資格検定を設定し、１年次において取得率85%以上にする。	(電)第2種電気工事士　86.5% (電)第2級デジタル通信　64.9% (機・建)計算技術検定3級　100% (商)全商3級5種目取得率　70% (地)全商の主催する検定(電卓・情報処理・簿記・ビジネス文書・商業経済)のいずれか3級の取得率100%	B	各学科で資格検定取得に向けて日夜補習授業を行った。生徒達も目的意識を持ち、熱心に取り組み期待に応えている。来年度以降も継続していきたい。 基礎基本となる資格検定の取得では電気科	工業と商業が連携した教育体制や、各種検定資格取得は、本校教育の重点目標であることから、十分な成果を出している。家庭での学習時	各種資格の学習をとおして、知識技能を身に付けるための学習方法を習得させることに努めた。今後も自らの職業意識を高め、進路の方向性を見いだす力を養

令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
		③	知識・技能を活用して、課題の解決を目指し、自分の考えを表現する態度を育む。	1	各種資格の学習をとおして、知識技能を身に付けるための学習方法を習得するとともに、自らの職業意識を高め、進路の方向性を見いだす力を養う。	難関国家資格・検定試験の受験を奨励し、地域社会の発展に貢献できる技術者の育成を目指す。 第三種電気主任技術者試験合格１名以上 ジュニアマイスターゴールド取得３名以上 ２級土木施工技術者試験合格１名以上 ２級建築施工技術者試験合格１名以上 全商３種目１級資格取得５名以上	第三種電気主任技術者試験２名 ジュニアマイスター特別表彰ゴールド７名 ジュニアマイスターゴールド７名 ２級土木施工管理技士試験合格１名 ２級建築施工管理技士試験合格４名 全商３種目１級資格取得８名	A	と商業科の一部の資格検定において目標を達成できなかったが、１年間を通して生徒たちはよく頑張っていた。次年度では、さらなる活躍を期待したい。 難関国家資格・検定の取得では電気主任技術者試験において２名合格者を出すことができた。 課題研究の自己評価では、学んだ知識や技術を活かして、仲間と協働しながら課題の解決に取り組めたことが高い満足度につながっている。 地域貢献活動では、小学校出前授業などを通じて小学校の児童たちと一緒になってプログラミングに取り組み、課題解決に取り組めた。	間について確保できるよう、保護者にも協力を依頼することも大切である。 毎年、高度資格を取得しており、今後も継続した素晴らしい指導をお願いしたい。地域に対する貢献活動にも成果が出ており、地域に根ざした教育活動を展開していることを実感した。	いたい。
				2	工業と商業が連携して、地域の資源を生かした教育活動に取り組むとともに、その成果を機会を捉えて県内外に発信する。	学習の成果を各科の発表会や課題研究概要集の形で発表し、生徒の自己評価シートによる目標達成度を85%以上にする。	各科・各班で年度当初に設定した課題に班員とともに試行錯誤しながら取り組むことができた。	A			
						各科の専門を生かした地域貢献活動に取り組み、生徒の自己評価シートによる目標達成度85%以上にする。	地域貢献活動に取り組んだほとんど全員の生徒が、目標を十分に達成できたと感じた。	A			
キャリア教育の充実	生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度を育成する。	①	自己の特性を理解させ、自らのあり方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。	1	進路に関するHR活動及び、進路相談を計画的に実施する。	生徒・保護者アンケート回答での「進路指導が役に立っている」の評価を85%以上にする。	生徒の90%、保護者の93%が「役に立っている」と回答している。	A	A 就職希望者全員が内定を得ることができたのは、旧２校をはじめ、つるぎ高校の卒業生が全国各地で長年に渡って活躍されているお陰である。しかし、その背景には長年に渡り保護者・生徒・教職員が一丸となって営々と築いてきた本校の教育実績がある。 また、進学についても、個別指導に重点を置いた生徒個々の実力に見合ったきめ細かい指導の結果、希望した大学等に進学できた。	地域の人たちからは、進路指導がしっかりとしている学校という印象である。生徒一人一人の進路実現に向けて、引き続ききめ細かな指導に取り組んでほしい。 企業訪問・大学訪問等については、新規進路開拓に向けて情報収集を行うことができた。	キャリア教育を１年時より継続的に実施し、自分らしい生き方を実現するための力を育成していく。また、インターンシップを奨励し、職業観・勤労観の充実に繋げていく。 企業選択時のミスマッチを可能な限り少なくできるよう、進路に関する情報を積極的に発信し、生徒・保護者の進路選択に役立てるように努める。
				2	進路説明会・進路通信をとおして、生徒・保護者に進路情報を提供する。	進路説明会と進路通信を、年3回以上発行する。	進路ガイダンスについては、３年生は５月に小論文添削指導、１・２年生は10月に合同で就職（職業説明）と進学（学部学科説明）を行った。新規行事として、保護者向け進学説明会を実施した。ホームページでの情報発信を行った。	B			
		②	望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた、進路の実現を図る。	1	三者面談や個別指導などをとおして、生徒・保護者の希望・適性に応じた進路指導を実施する。	「希望・適性に合った進路決定ができた」の生徒アンケート回答を85%以上にする。	生徒の97%、保護者の98%が、「自分（お子様）の進路結果に満足している」と回答している。	A			
				2	SPIなど、学力試験の変化に対応した模擬試験を実施する。	就職試験(1社目)での内定率を80%以上にする。	就職試験（１社目）での内定率は、98.9%であった。	A			

令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
		③	進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。	1	企業訪問、電話連絡及びWeb相談を実施し、就職求人数を確保する。	訪問及び電話連絡企業数を80社以上、求人数を300人以上にする。	県内・県外とも各科で分担し多くの企業訪問を行った。求人数は2,400人以上であった。	A			
生徒指導の充実	学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開し、暴力・いじめのない良好な人間関係づくりと安全・安心な学校づくりに努める。	①	基本的生活習慣を確立し、よき伝統の育成に努める。	1	服装・頭髪検査に合格しない生徒には保護者と協力し、粘り強く指導を行う。	頭髪服装検査を年10回以上行う。	全校集会時に実施できた。各学年クラスごとに男女別で実施した。チェックを受けた者の指導も適切にできた。	A	A 生活指導は目を見ながら指導することが大切である。その結果、重大な事件・事故に巻き込まれることもなく、自他の生命の尊重を重視し、非行防止に努めることができた。服装・頭髪検査も実施し、必要時には随時検査を行った。 毎朝夕、駅から校門前までの登下校指導を行った。関係機関との合同巡視も実施した。通学別集会、列車指導等は例年どおり実施できた。自転車・原付バイク及び徒歩・送迎での通学者の交通マナーも呼びかけた。自転車のヘルメット着用の推進モデル校に県内では初めて町と同時に指定を受けた。現在県内高校の中でトップクラスの着用率（40.4%）を誇っており、様々な啓発活動を実施した。今年度交通事故件数は0件であった。 携帯電話のマナーや安心して使用できる環境づくりのために定期的に注意喚起を行った	朝の登校指導や昼食時間の巡視など日頃の先生方の地道な指導で、生徒は全体的に校内外を問わず挨拶ができ、服装・頭髪などの身だしなみもきちんとできており、地域や企業の方々からの評価は高い。 SNSやインターネットに関するトラブルについては継続的に指導を行えており、成果も出ている。 生徒にとってスマホは身近なものであり、今後トラブルに巻き込まれる可能性もあるので、引き続き情報モラルなどの指導を行って欲しい。 自転車のヘルメット着用の推進モデル校にも指定されており、県内高校の先駆者として活動を継続的に行っていって欲しい。原付通学生に対し、交通事故がないように今後も危険を回避できる能力の育成が大切であり、安全教	暴力いじめについての指導も引き続き取組み、登下校時や校内外の巡視及び各学期の被害調査等から問題行動の未然防止と早期発見に努める。通学途中のマナー・モラルの指導は全校集会や学年集会をとおして行い、通学経路や危険箇所等での立哨も併せて取組んでいく。 ＳＮＳの使用については、現在生徒指導における主たる課題であり（今年は昨年に比べ特別指導数は減少（1件）している）正しいルールでスマホを使用することに引き続き様々な施策を講じていく。来年度は講師を招聘し、講演会を開催すること、全校集会・学年集会・ＨＲ活動等あらゆる機会を捉えて指導していきたい。 登下校時の交通安全については、無事故・無違反を目標にあらゆる機
				2	遅刻過多の生徒については保護者と綿密な連携をとり、指導する。	遅刻者0名の日を年間50日以上にする。	目標日数は達成できなかった。（R7.1.24現在28日）遅刻者が冬期に集中。保護者との連携や登下校指導などの効果は見られた。	B			
		②	交通安全意識の高揚と交通安全マナーの向上を目指し、交通安全教育の推進を図る。	1	JR貞光駅から校門までの交通危険箇所での立哨指導を行う。特に下校時の巡視を徹底する。	登校下校の立哨指導を授業日の95%以上行う。	立哨指導を100%実施できた。朝夕時の駅から学校までの登下校指導は徹底できた。	A			
				2	通学別集会を各学期毎に行い、マナー・モラル向上を徹底し、登下校するよう指導する。	交通安全行事(通学別集会・交通安全講習他)を年5回以上実施する。	１・２年生は４回、３年生は５回実施した。交通事故件数も０件であった。	A			
		③	良好な対人関係を構築できる社会性を育成し、暴力いじめ等重大な人権侵害を未然に防止する態勢を整える。	1	各課において道徳教育の目標を定め、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。	各課・各学年において、それぞれ具体的な取組を行う。	全校集会時や始・終業式及び学年集会時に徹底した指導ができた。	A			
				2	無記名による被害調査を実施し、暴力・いじめにつながる行動などを把握し対応する。	暴力・いじめ等に関する調査を無記名で年3回実施する。	評価指標どおり各学期に計３回実施することができた。調査結果を職員会議で報告し、教職員間で共通理解を図ることができた。ＨＲ担任との連携を密にとり対応することができた。	A			

令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
				3	携帯・スマホを適切に使用するため、全校・学年集会において常に注意喚起を促す。有害サイトへのアクセス、誹謗中傷などマナー・モラルに反する書き込みをしないよう指導を徹底する。	携帯・スマホ安全教室（講演）を年1回以上実施する。	全校生徒対象に実施することができなかった。全校集会、学年集会等でスマホの取扱いについての注意喚起を行った。来年度は2回実施したい。	B	的に注意喚起を行ったが、スマホ安全教室の開催は日程調整等が難しく、実施することができなかった。	育の指導・充実に努めて欲しい。	会を捉えルール・マナーの遵守を徹底し指導する。また警察とも連携を密にとりながら指導の強化に努めていく。
主権者教育・消費者教育の充実	政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。 環境や社会に配慮した消費者教育の充実を図り、主体的に取り組む態度を育成する。	①	政治や選挙制度に対する理解や参加意識を高め、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図る。	1	主権者教育を推進する上で、教員が留意すべきことについての共通理解を図るための研修を行う。	主権者教育に関する研修を、年1回実施する。	国政・地方選挙などが実施されるたびに、研修（説明・お願いなど）を実施できた。（１回以上）	B	A 生徒の感想では、「選挙することの大切さと有権者としての自覚などを学べてよかった」など「選挙」を通した「政治」への積極的な参加意欲につながる意見が多かった。主権者としての自覚を高め、主体的によりよい社会を作ろうとする力を身に付けることができた。	主権者教育を進めることで、地域の課題を自ら考え、協力して主体的に解決できる能力を育んで欲しい。18歳で成人となる現代社会において、政治への関心をより一層高め、投票率が上がるように若者の育成に努めてほしい。	教職員に主権者教育の研修を適宜行い、共通理解を図る。 主権者教育に関する授業を計画的に実施し、社会において主権者として主体的に判断し責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする。
				2	政治の仕組みや知識の習得だけでなく、主権者として自覚し、他者と連携・共同しながら地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身につけさせる。	各教科・HRで主権者教育に関する授業を実施し、アンケートにおいて理解度を65％以上にする。	２学年で「よりよい社会を造るために、一票の意義」というテーマで出前講座を実施した。公共など社会の授業においても十分主権者教育を実施できた。	A			
		②	持続可能な生産と消費を重視した活動において、主体的に取り組む態度を育成する教育の充実を図る。	1	自立した消費者をめざし、消費者の権利と責任を理解し、消費者問題に取り組む姿勢を養う。	消費者教育に関する授業を実施し、アンケートにおいてを理解度を90%以上にする。	２年生全クラスを対象に消費者教育の授業を行った。	A	消費者として主体的に判断し、責任を持って行動できる力の育成をめざした。3年生商業科を対象に専門の講師によるリモート型消費者教育を行った。実施後のアンケートでは理解度は100%であった。感想には、貯蓄と投資に関する記載が多く、長期の生活設計に目を向けることができた。	消費者教育については、今後社会において自ら判断して消費者としての自立ある行動が求められる。投資に関する簡単な知識も得ることができた。今後の生活設計の参考にしてもらいたい。	消費者教育に関する授業を計画的に実施し、社会において消費者として主体的に判断し、責任を持って行動できる能力を育むことを目標とする。
				2	企業の社会的役割やソーシャルマーケティングを学習し、消費者教育の充実を図る。	消費者教育に関する授業を年1回実施する。	ＳＭＢＣコンシューマーファイナンス（株）から講師を招き、Ｚｏｏｍを使ってリモート型消費者教育を３年生商業科を対象に行った。	A			
	学校行	①	生徒会活動についての積極的広報と生	1	生徒会新聞の発行とホームページの更新を適宜行う。	生徒及び職員の生徒会活動に対する満足度を90%以上にする。	生徒会新聞の発行とＨＰの更新も適宜行った。	A	A	体育部、文化部の活躍を新聞紙上やニュースにおいて取り上げられており、大変素晴らしいと感じている。	礼儀正しい挨拶は、近隣の方々や来校される方々からも、褒めていただいている。引き続き挨拶運動に努めていく。

令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル	活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
特別活動の充実	学校行事、生徒会活動の充実を図り、ボランティア活動等の機会を取り入れることにより、豊かな人間性を育成する。 部活動の充実・活性化により、心身両面における成長を図るとともに、団結力や協調性を育成する。	① 徒会活動への理解と協力を促す。	2	生徒会役員を中心とした挨拶運動を実施する。	挨拶運動を毎月1回実施する。	評価指標どおり毎月１回実施した。	A	生徒会新聞は臨時号を発行するなど、昨年度より発行回数を増やし、HPにも掲載した。 部活動は限られた時間の中で、各部練習方法などを工夫して成果を上げている。 生徒会・部活動の活動も校内はもとより、貞光駅清掃や吉野川河川敷等の環境美化活動を定期的に行うことにより、地域の方から好感を持たれるとともに、生徒の豊かな人間性の育成の一翼を担っている。	全国選抜大会に出場を決めている部活動には、県代表として頑張って欲しい。	本年度は、全国大会に出場する部が多く、学校全体が活気づいた。引き続き部活動の活性化に繋がるように努めたい。また、部活動の入部率向上のために、さらに努力していく。 清掃活動は継続して続けていき、周辺地域に貢献していく。来年度以降も実施する。
		② 各種委員会を活性化させる。	1	各種委員会が主体となった学校行事を実施する。	生徒及び職員の学校行事に対する満足度を90%以上にする。	満足度は生徒が96%で、職員が100%であった。	A			
		③ 部活動への入部率及び継続率を向上させる。	1	部活動入部までの放課後の時間(見学できる時間)を確保する。	部活動入部率・継続率の向上(入部率90%以上、1年間継続率95%以上)	部活導入部率が98%、１年間継続率が95%であった。	A			
		④ 部の活動に奉仕活動を加え、豊かな人間性の育成に努める。	1	各部活動が自主的に奉仕活動を実施する。	5部以上の部活動が奉仕活動を実施する。	ＪＲＣ部、ラグビー部、サッカー部、ソフトテニス部、陸上部、バスケットボール部、レスリング部などが奉仕活動を実施した。	A			
教育相談・特別支援教育の推進	学校全体での組織的支援体制及び関連機関との連携による支援体制の充実を図る。	① 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。	1	特別支援教育に関する職員研修会を実施する。	職員研修会を年1回以上行う。	特別支援教育委員会を実施し、合理的な配慮を必要とする生徒への理解と配慮内容についての検討を行うことはできたが、全体の研修はできなかった。	B	B 「ディスレクシア」のある生徒への合理的配慮について適宜、対応することができた。また、スクールカウンセラーの定期的な来校に合わせ、生徒・保護者・教職員の胸臆相談を計画的に実施できた。また、全職員を対象に「心肺蘇生法とエピペン実技講習会」を実施した	特別な支援が必要な生徒に対して、教員研修会等計画的に実施するなど、組織的に対応できている。今後も、支援が必要な生徒は増加傾向にあるため引き続き取り組んで欲しい。 スクールカウンセラーが、定期的に来校するようになったことは良いことである。生徒一人一人にきめ細やかな指導を引き続	特別支援教育の職員研修を充実させ、全教職員の理解を深め教育力の向上を図っていく。また、様々な支援事業や発達障がい者支援センターアイリス・スクールカウンセラー・巡回指導員・大学等の機関と連携を深め、支援が必要な時にすばやく対応できる体制を構築していく。 全職員を対象に
			2	支援が必要な生徒には、個別の支援計画を立て、カウンセラーや専門機関と連携して支援を行う。	支援が必要な生徒に、個別の支援計画を立てる。	担任等から特に申し出はなく、個別の支援計画を立てることはなかったが、カウンセラーや専門機関との連携が必要な場合は、個別に対応することができた。	B			
		② 教育相談活動の一層の充	1	スクールカウンセラー等活用事業について周知を図るとともに、一人一人の生徒への声かけや定期的な個人面談による教育相談を行う。	スクールカウンセラーだよりを年1回以上、保健だよりを毎月発行するとともに、保健委員の活動を実施し、保健に関する啓発活動を行う。	スクールカウンセラー便りを学期ごとに年３回発行し、教育相談の案内を広報した。保健委員会・保健だよりともに、毎月開催・発行した。保健室において、個人面談による教育相談を行った。	A			

令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
進		②	動の一層の充実を図る。	2	生徒一人一人の心身の状況を把握するために「悩み・心配事」の調査を行う。	「悩み・心配事」の調査を年１回以上実施する。	「悩み・心配事」についてのアンケートを年１回実施し、調査結果を各担任及びスクールカウンセラーと共有し、必要な生徒にはカウンセラーとの面談へ繋げた。	B	た。	き行って欲しい。	「心肺蘇生法とエピペン実技講習会」を実施し、緊急事態時に迅速に使用できるようにする。
環境・防災・安全教育の推進	環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。 防災教育を推進し、災害発生時の支援活動等の実践力を育成する。	①	環境問題学習の一層の推進と啓発を進める。	1	環境保全活動啓発ポスターの作成・掲示を行うことにより、省エネ・エコ意識を高揚させ、節電・節水に努める。	室内温度を観察しながら、生徒の体調に配慮し、エアコンの運転を適切に行う。プルタブ、ペットボトルキャップの分別回収を徹底する。	夏のエアコン使用などで大幅な節電はできなかったがグラフ掲示により、電力使用状況の可視化ができた。「ゴミの分別、節水、節電ができている」は職員97%、生徒97%であった。	B	B エネルギー教育は成果が見えやすいので、達成度がよくわかる。おおむね節電等に取り組めていたように感じるが、一層の教育の充実を図っていきたい。清掃活動は、日々の活動の中でよく協力して行っている。ＡＥＤ使用については「できる」「おおむねできる」をあわせると95%である。すべての職員が使用できるようにしていきたい。	生徒の教育環境を整えることで、生徒の体調を考慮しながら節電を心掛けて欲しい。 災害時の行動を自らの判断で命を守るとともに、他者と助け合う力の育成に向け、防災教育を今後も継続して欲しい。また、職員対象のAED講習会、生徒対象の救命講習も継続して欲しい。	エネルギー教育について、どのような課題があるのかを具体的に学ぶ機会を設定するなどして取り組む必要がある。 清掃活動については、日々真面目に実施できている。その上で地域での清掃活動を更に充実させたい。 防災教育について、生徒は防災訓練に真摯に取り組んでいる。救命救急法の講習の含め、さらに質の向上に努めたい。
		②	校内・校外清掃の活性化を図る。	1	全職員による毎日の清掃指導を実施し、教室の清掃を丁寧に行い、清潔な学習環境を作る。	職員及び生徒の、実施できているという自己評価を90%以上にする。	「十分できている」「おおむねできている」の自己評価が職員96%、生徒99%であった。	B			
				2	生徒が利用している校外の施設等の清掃活動を行い、地域の環境美化に努める。	年1回以上、貞光駅や吉野川周辺の清掃活動を行う。	部活動所属の生徒を中心に、ボランティアを含め多くの生徒が参加し、10月に実施することができた。	B			
		③	防災・安全教育を推進する。	1	防災訓練を実施する。	火災を想定した防災訓練とAED講習会を行う。	５月に美馬西部消防署から６名来校し、助言・指導をいただきながら実施することができた。	A			
				2	新型肺炎に配慮しながらAED講習会を実施する。	職員アンケート「AEDを使用できる」を95%以上にする。	ＡＥＤ講習会を実施し、「ＡＥＤを使用できる」「ＡＥＤをおおむね使用できる」が95%となった。また生徒対象に防災訓練時に救命救急法の講習を受けることができた。	A			
地域とともにある学校づ	保護者や地域社会との連携を密にし、学校教育活動全体にわたって地域の教育力を生かすとともに、ホームペー		情報発信を積極的に行う。	1	ホームページを利用して、行事など生徒の活動や各種情報を発信する。	ホームページを更新し、最新情報を提供する。（更新回数70回以上）	ホームページは177回の更新を行った（2/13現在）	A	A マスメディア等を通じて、学校情報を積極的に発信することができた。 夏休みの中学生体験入学に231名、10月のオープンスクールに20名の中学生が参加してくれた。どの実習にも積極的に取り組んでく	西部地域の人口減少もあり、生徒募集に苦慮されていると感じるが、今後も学校PR活動に積極的に取り組んで欲しい。	生徒募集の面では、進学説明会、中学生体験入学、オープンスクール等を通じて本校のＰＲ活動を充実させていきたい。また、従来のＰＴＡ活動へ回帰しつつあるため、今後も活性化を図りたい。
				2	マスメディア等を通じて、学校情報を積極的に発信する。	徳島新聞、四国放送、NHK等に資料提供を積極的に行う。	徳島新聞等に134回、テレビ・ラジオ等にも複数回取り上げられ、本校生徒の活躍が紹介された。（2/13現在）	A			
		②	ＰＴＡ活動の	1	ＰＴＡ総会・役員会の活性化を図り、参加率を向上させる。	役員会30%以上、総会30%以上の参加を得る。	役員会は45.6%、総会は26.4%であった。	B			

令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
くりの推進	ジ等を活用し積極的に情報発信を行う。	②	活性化を図る。	2	体育祭等の行事で、PTA家庭教育研修部による模擬店や展示を実施する。	体育祭等の行事において、PTA家庭教育研修部役員の参加率30%以上を得る。	研修部員の参加は28.3%であったが、それ以外の方々のご協力をいただけた。	B	積極的に取り組んでくれ、体験入学、オープンスクール共に100%の生徒から参加満足度を得ることができた。		
		③	中学校との連携を図る。	1	中学生体験入学やオープンスクールの充実を図る。	参加者アンケートにおいて「満足度」を90%以上にする。	８月に２日間、中学生体験入学を開催できた。また、10月にもオープンスクールを開催でき、中学生等に本校の実習内容等を十分アピールできた。	A			
地域と連携した専門教育の充実	６次産業化に向けた取組等により、地域貢献につながる実践力を育成する。	①	行政機関との連携強化を図る。	1	つるぎ町及び美馬市と連携した地域貢献活動を推進する。	つるぎ町や美馬市のイベントに参加し、地域のPR活動を行う。	つるぎ町や美馬市のイベントに参加し、地域のＰＲ活動を行うことができた。	A	A 本年度は県教委のスーパーオンリーワンハイスクール事業やふるさと協働等による高校教育の質の向上・充実化事業の予算はなかったが、挑み続ける人財育成事業等を活用し、地域活動に積極的に参加することができた。	つるぎ町をPRする活動として、つるぎ町観光土産品の販売や、世界農業遺産の講演会など、様々な地域貢献活動への取組。さらにJR四国と連携したトロッコ列車のおもてなし事業の企画立案等新しい試みも見られた。今後も地域と連携し特色を活かした取組に期待する。	今後も県や地元の事業に積極的に参加して、地域貢献と地域の活性化をめざしていきたい。また、生徒がより積極的に構内外での活動に取り組めるよう支援していきたい。
		②	企業との連携強化を図る。	1	企業と連携した地域貢献活動を推進する。	美馬交流館と協力し、「みまから」の生産や販売に関する新しいアイデアを提案する。	美馬交流館と協力し、特産物の「みまから」の販売を産業教育展で実施し完売することができた。トロッコ列車のおもてなし活動での地域ならではの商品販売も貞光駅で実施することができた。	A			
				2	販売実習・インターンシップ等を積極的に行い、職業・勤労意識を高める。	販売実習・インターシップ参加生徒の満足度を85%以上にする。	インターンシップ16社36名が積極的に参加した。参加者は満足、概ね満足を合わせては90%である。 販売実習は産業教育展やトロッコ列車のおもてなし活動とともに不定期ではあるが実施することができた。	A			
		③	地域との連携強化を図る。	1	商品開発・伝統工芸（野鍛冶・石積み）の継承や観光振興を地域と連携し活動を推進する。	地元の特産物を使用した商品開発、お土産品の作成等を行う。	本年度はつるぎ町の世界遺産農業についての講演会や傾斜地での農業体験も実施することができた。	B			
	各種競技会等へ積極的に参加			1	３年間の資格・検定取得指導体制を取り、全校生徒が複数の資格・検定を取得する。	工業学会優秀生徒表彰(資格)を75%以上にする。 全国商業高等学校協会主催の検定３種目以上１級取得者を10%以上にする。 他科の資格・検定取得者数を10名以上にする。	工業学会優秀生徒表彰は101名中54名で53.4%となった。 全国商業高等学校協会主催検定３種目以上１級合格者は、８名であった。	A	A	生徒も新たな目標を設定しつつ、良く頑張っている。今後も引き続き、資格取得や各種競技会での活躍や、地域と連携した特色ある学校づ	次年度も工業科・商業科ともに資格・検定の取得に意欲的に取り組むことで、進路事実につなげていきたい。昨年度より新型コロナウイル

令和6年度　学校評価表

重点	重点目標 全体レベル	重点目標 下位組織レベル		活動計画		評価指標	評価指標による達成度と活動計画の実施状況	評定	総合評価及び所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
工業・商業教育の推進	的に参加し、国家資格、検定試験等に全力を挙げて取り組む。 スーパーオンリーワンハイスクール事業・ふるさと協働による高校教育の質の向上・充実化事業等の成果を生かし、グローバル化に対応したつるぎ高校ならではの教育を推進する。	①	3年間をとおして職業資格・検定の取得を行うと共に、各種競技会へ参加する。	2	競技用ロボット・マイコンカーラリー・ものづくりコンテスト大会・ビジネス計算競技大会・簿記競技大会等に出場し、全国大会に出場する。	工業科・商業科とも全国大会へ、1種目以上出場する。	高校生ロボット競技大会は全国大会に出場した。また、マイコンカーラリーはアドバンス部門で、全国大会に出場した。 また、商業の各種競技会では、経理部がビジネス計算競技大会の県大会で優勝し、四国２位、全国８位入賞を果たした。個人でも２名が佳良賞を受賞した。さらに、英語スピーチコンテストで佳良賞（全国第４席）に入賞するなど昨年に引き続き優秀な成績を残した。その他、ワープロ、情報、簿記で全国大会に出場した。	A	昨年に引き続き工業科商業科ともに資格・検定の取得に意欲的に取り組んでいる。また、専門分野における技術等の向上が図られ県大会・四国大会・全国大会に出場し、活躍した。	くりを目指してほしい。	ス感染症も５類移行となり、全国大会や各種競技大会や各種資格検定の対策も以前のように目標を達成できるよう頑張りたい。
		②	工業科・商業科に渡る知識と技術を生かし、共同しながら特色ある教育を展開する。	1	「地域創生」「世界農業遺産」等を教材とした実践的学習を確立する。	「地域の伝統文化に学ぶ」コンテストに工業科と商業科が連携して応募する。	「地域の伝統文化に学ぶ」コンテストに工業科と商業科が連携して応募することはできなかったが、世界農業遺産の講演会やつるぎ町との連携活動は実施することができた。	B			